



Summer



Autumn



Winter



# 国宝 犬山城

別名  
白帝城

National Treasure  
Inuyama Castle

公益財団法人  
犬山城白帝文庫歴史文化館へ

## ようこそ

慶長12年(1607)、徳川家康の9男義直が尾張へ移封されると成瀬正成はその傅役となります。まだ幼い義直にかわって、尾張藩政を委ねられていた平岩親吉が同16年に死去し、その翌年から正成は竹腰正信とともに尾張藩の付家老として政務に携わりました。元和3年(1617)、成瀬正成が2代將軍徳川秀忠から犬山城を拝領して以後は幕末まで代々、城主と尾張藩付家老を務めました。

明治24年(1891)の濃尾震災をきっかけに再び成瀬氏が天守の所有者となり平成16年(2004)までの長きにわたり個人所有の城として知られてきました。

犬山城白帝文庫は、国宝犬山城天守および旧犬山城主成瀬家伝来の古文書・美術工芸品等を調査研究・保存・公開し、犬山の文化発展に寄与することを目的として平成16年4月に設立されました。



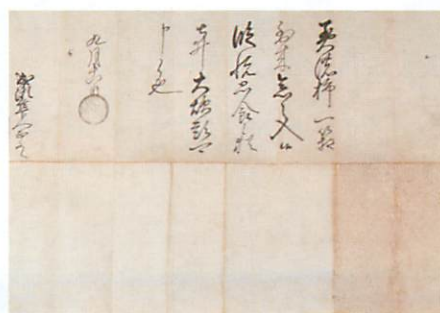
小牧・長久手合戦図 江戸時代



黒塗菊桐蒔絵櫃 桃山時代



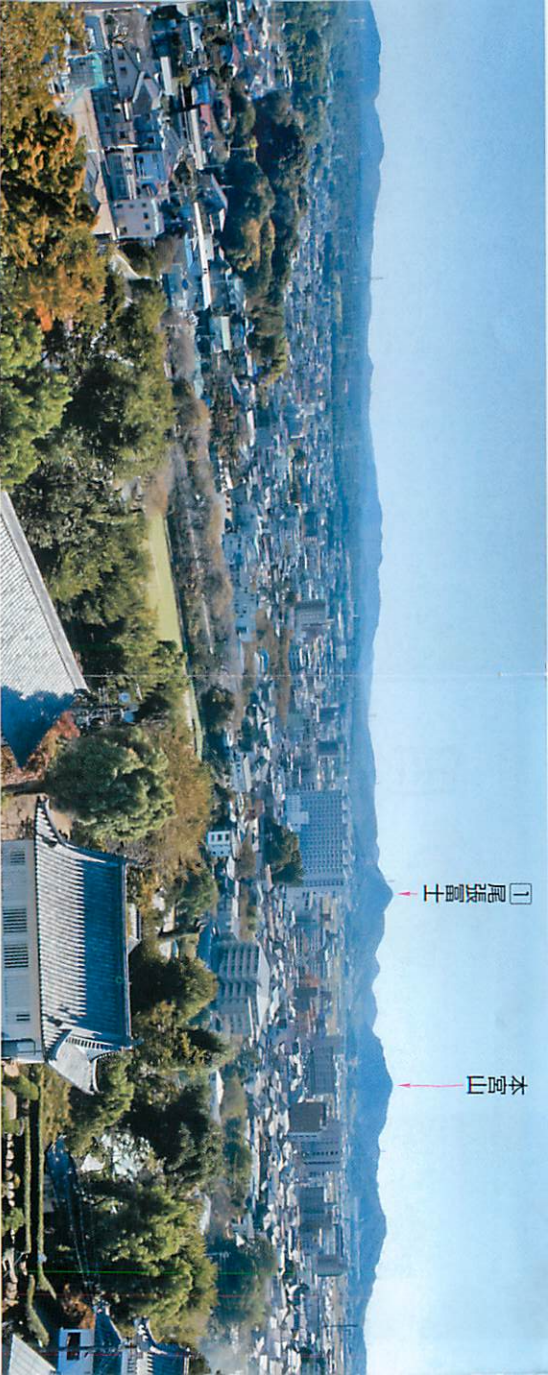
白熊毛兜 江戸時代



徳川秀忠御内書 江戸時代

犬山城白帝文庫歴史文化館は城とまちミュージアムの中にあり、所蔵資料を常設展示するとともに年2回、企画展・特別展をおこなっています。





① 尾張富士

大宮山



犬山成田山  
有楽苑  
(国指定重要文化財)

⑨ 日本モンキー  
パーク

⑧ 日本モンキー  
センター

⑦ 鶴飼乗船場

ツインブリッジ  
犬山橋

⑥ 御嶽山



① 尾張富士 (275.0m)

尾張3大奇祭のひとつに数えられる石上祭が毎年8月の第1日曜日におこなわれます。

町並み

城下町として栄えた犬山の町には、江戸時代の面影を残す町並みをみることができます。

② 犬山市文化史料館

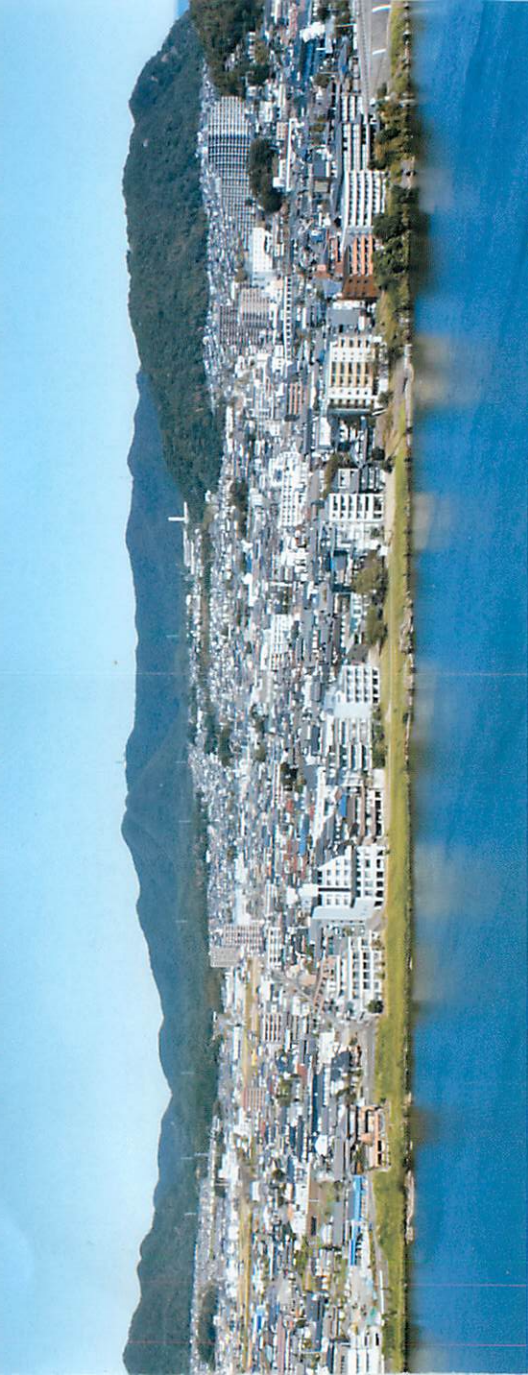
市内の貴重な文化財やからくり等が展示されています。また、犬山城白帝文庫歴史文化館が併設され、旧城主の成瀬家伝来の資料を常設展示しています。

小牧城(小牧市歴史館)

③ 織田信長が桶狭間合戦の後、美濃攻略のために築いた城。小牧・長久手合戦には、徳川家康の本陣がおかれ、犬山城に入場した羽柴(豊臣)秀吉と対峙しました。

④ 伊木山 (173.1m)

山頂付近には戦国時代の山城である伊木山城跡があります。また、「夕暮れ富士」とも呼ばれ親しまれています。







② 犬山市  
文化史料館

テレビ塔

JRセントラル  
タワース

③ 小牧城

# から見た景



⑤ 岐阜城

金華山(きんかざん)山頂に位置し、鎌倉幕府の執事二階堂行政により砦が築かれたといわれています。戦国時代には斎藤道三や織田信長が居城とし、天下統一の野望を膨らませていました。



⑥ 御嶽山(3,067m)

古来より信仰を集めてきた霊峰です。“木曾のおんたけさん”として崇拝されています。

⑦ 鶺鴒乗船場

うかいは、美濃国では702年(大宝2年)の各務郡中里の戸籍「鶺鴒養部目良売(うかいべめづらめ)」の記述が最も古い資料です。この資料から木曾川うかいの起源は、今より1300年前と考えられています。



犬山では、今から340余年前に3代犬山城主成瀬正親が始め、鶺鴒匠を保護したといわれています。

⑧ 日本モンキーセンター

世界一の種類を誇るサル動物園があります。

⑨ 日本モンキーパーク

楽しい乗り物がいっぱいの遊園地があります。



御在船場

木曾川

木曾大橋





## 天守の構造の概要

総延面積 698.775㎡

天守の形式 望楼型

外観

◇3重 高さ19m

内部4階

地下2階(石垣の中)



1 階

◇納戸の間(282.752㎡)

中央部は4室に区画されており、その周囲には2間幅の武者走(通路)がめぐります。上段の間は床が7寸高く畳敷で、室内には床や棚などがもうけられています。昭和の解体修理で、明治24年(1891)の濃尾震災により破損したという南東隅の付櫓(15.22㎡)と北西隅の石落としの間(7.17㎡)を復元しました。



2 階

◇武具の間(246.006㎡)

中央に武具の間があり、東・西・北の3方に武具棚を設けています。解体修理で発見された墨書銘から延宝3年(1675)に設置されたものであることがわかりました。

3 階

◇破風の間(81.936㎡)

入母屋屋根の中に位置します。創建当初は2階の屋根裏でしたが、増築に伴って3階となりました。南北には唐破風が設けられています。



4 階

◇高欄の間(49.835㎡)

高欄の間の4方には約半間の廻縁がめぐり、高欄の間の南北に出入口があります。出入口の左右には装飾化した花頭窓が配置されています。



天守の石垣

石垣の高さは5mで、自然石をほとんど加工しないで積み上げた野面積みという工法です。

## 犬山城の沿革

犬山城は織田信長の叔父である織田信康が天文6年(1537)に木之下城を移して築城したと伝えられています。

こののち江戸時代初期にかけて城主はめまぐるしく入れ替わりました。

天正12年(1584)小牧・長久手合戦の際には羽柴(豊臣)秀吉は大軍を率いてこの城に入り、小牧山に陣をしいた徳川家康と戦いました。

江戸時代になり、元和3年(1617)尾張藩付家老、成瀬正成が城主となってからは成瀬氏が代々受け継いで幕末を迎えました。

明治維新に犬山城は廃城となり、天守を除いて櫓や門の大部分は取り壊され公園となりました。

明治24年(1891)の濃尾震災で天守は大きな被害に見舞われました。同28年、愛知県から修復を条件に旧城主である成瀬氏に譲渡されました。また、多くの市民からの義援金により修復工事がおこなわれました。その後、昭和34年(1959)の伊勢湾台風などで天守の破損が激しくなったため、全面的な解体修理工事がおこなわれました。

天守は昭和10年(1935)に国宝に指定され、同27年規則改正にともない再指定されました。また、天守の創建年代は天正(1573~92)頃、慶長5(1600)・6年などいくつかの説がありますが、現存する天守の中では最も古いと言われています。平成30年(2018)2月13日に国の史跡に指定されました。

現在、犬山城天守は犬山城白帝文庫の所有となり、犬山市が管理をおこなっています。

お問い合わせ

犬山城管理事務所 TEL.0568-61-1711

〒484-0082 犬山市大字犬山字北古券65番地2

公益財団法人

犬山城白帝文庫 TEL.0568-62-4700

〒484-0082 犬山市大字犬山字北古券8

記念スタンプ・メモとしてお使いください

2019年12月現在